



基本理念
まるさ行こ
す。これいも私
国立行政法人
病院機構高知病院
達は地域に医療心
を病院に目指と信頼をの

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385



NHO高知病院 院長
大串 文隆

新年明けましておめでとうございます。職員の皆さんも新しい気持ちで2016年を迎えたことと思います。2015年は大村智先生が医学生理学賞、梶田隆幸先生が物理学賞と2人の研究者がノーベル賞を受賞し明るい話題を提供してくれました。地道に研究を継続されたことに頭が下がる思いです。スポーツの世界ではイングランドで開催されたラグビーのワールドカップでエディジャパンは世界のトップクラスの強豪南アフリカを破り予選3勝という快挙をなし日本中が歓喜しました。南アフリカ戦終了間際、ペナルティキックを行えば同点になる状況でリスクの高いスクラムによる攻撃を選択し逆転勝ちしました。何度もその場面の映像が映し出されましたが、このラストプレーでのトライは感動的でした。これらの明るい話題とは対照的に、昨年4月に非公務員化した国立病院機構の各施設は長期公経済負担、労働保険制度の導入が行われたことにより、多くが厳しい病院運営を強いられる状況となっていました。高知病院も運営状況が今まで以上に厳しくなりましたが全職員の努力によりこの9ヶ月を乗り越えてきました。平成28年度に診療報酬改定が行われますが、今回は施設基準の厳格化、国の財政事情を踏まえた改定が予想されており、今後の病院経営は益々厳しくなってくると思います。このような環境の大きな変化に対応するため継続して国立病院機構の役割を果たしていく強靭な体制の構築が求められています。毎年年末になると今年の漢字が発表されます

が2015年今年の漢字は「安」でした。「安」が選ばれたのには政治的なことや国民が安心感を求めていること、あるいは将来への不安など様々な理由があるかと思いますが、医療にとっては安心できる、あるいは安全の医療の提供の「安」と言えると思います。このような医療を提供するには全ての職員が自分に与えられた職務を基本に忠実に実践していくことが重要ではないでしょうか。エディジャパンの活躍によりラグビー選手がマスコミに出場する機会も増えラグビーに関する様々な情報が伝わってきています。その中でone for all, all for oneという言葉がよく話題になっています。一人はみんなのために、みんなは一人のためにと訳されていますが、後半のoneはvictoryであるとの意見もありみんなは勝利のためにとも言われています。この言葉を大きな意味でとらえてみると私達の病院にもあてはまると思います。つまり、職員一人一人がみんなのことを考えながら仕事することで、働きがいのある職場となり、職員や患者さんにとっての理想的な病院となることができるとも言えます。今年は、病院目標や職場の目標の単なる言葉として終わらせないため、結果を求める評価をしっかりとしていきたいと考えています。医療にとって逆風の環境ですが職員一丸となって安心、安全の医療を患者さんに提供し地域に信頼される病院となるとともに、機構の使命遂行のため、組織の一員として今年も頑張っていきましょう。

年男 としおとこ



リウマチ科医長 松森 昭憲

今年年男の原稿依頼があり、当院に赴任して12年間がたち、今まで12年毎に区切りがあるように感じました。

試験のことをあまり考えずに過ごせた小学校卒業まで～高知医科大学を卒業するまで試験に追われた頃～大学の医局に入り研修医からリウマチ専門医となり当院に赴任するまで～以後現在に至るまで区切られますが、最近眠っている時に夢に出てくるのは学校で試験に追われるような場面が多く、もっと別の夢をみたいなと思っています。

研修医の頃はリウマチは難病で現在のように寛解を実現することが困難で、いまでは使用頻度が少なくなっている金製剤の注射のことを指導医だった先生が横綱レベルの薬だと患者に説明していたのを覚えています。外来ではリウマチ以外に糖尿病、腎疾患も担当していますので食事に関して興味を持つことが多かったのですが、リウマチ等のアレルギー疾患でも食事（または生活環境）が関連していることを感じます。実際のところ、野菜、果物、魚、肉のいずれかをあまり食べていないことで必要なビタミン、ミネラル、リノレン酸が不足しているため感染症や薬の副作用が生じやすくなっている場合があります。指導医だった先生がリウマチと鉄の関連についての研究をされていたためか自分も微量元素に興味を持つようになり、亜鉛・マグネシウム・ビタミンB、Cを補助的に治療に加えています。これから12年も食事や生活環境の改善指導がライフワークになっていく気がしています。

年女 としおんな



看護教員 岡部 清美

新年あけましておめでとうございます。本年も皆さんにとって良い年となりますようお祈り申し上げます。

昨年の4月に就職し、もうすぐで1年を迎えようとしています。新しい環境にも少し慣れ、周りの方々に助けてもらいながら、あっという間に時間は過ぎ去っていましたが、日々勉強だなあと感じています。そして、新しい職場との「縁」に感謝しています。

今年は4回目の年女がやってまいりました。日本には「十干十二支」があり、今年は「丙申（ひのえさる、へいしん）」。十干十二支は全部で組み合わせが60種類あるので、60年に一度の「丙申」となります。また、動物のサルのことは「猿」と書きますが、干支のサルに関しては「申」という漢字を使っており、これは干支をわかりやすくするために、申という干支に対して、動物のサルを当てたため、読みも「さる」となったそうです。そして、「申」という漢字は、稻妻を象形した文字であり、稻妻がまっすぐ伸びていく姿を描いたもので、ほかにも草木が伸びて果実が成熟する状態を表す意味もあります。

2016年、申年にあやかって更なる成長・発展を目指して、自分自身の土台をしっかりと作れるよう一つ一つ確実に仕事に取り組みたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。



児童指導員 徳山 純一

テレビや雑誌などで『医療・福祉はサービス業であり、料金の対価として質の高い医療・福祉を提供する必要がある』というフレーズをよく目や耳にします。この事については皆さんそれぞれにご意見や考えがあるとは思いますが、個人的にはそれは「真」だと捉えています。しかし、そこには命と向かい合うという大きな「責任」やその裏付けとして「専門性」を活かした対応がなされています。とても当たり前のことですが、三回目の年男を迎えた今年は心新たにそのことを見つめ直し、「真摯に担う」をテーマに児童指導員として利用者やご家族と関わりを持ちたいと考えています。

普段の私を知ってくださっている方には、新年から急に真面目な事を言い出したと驚かれるかもしれません、新年の抱負ですのでご了承ください。「大丈夫です！安心してください！今年もひょうきんな一面も忘れませんよ！」。みなさん、今年も元気に楽しく時に真面目に宜しくお願ひ致します。



助産師 西村 亜貴

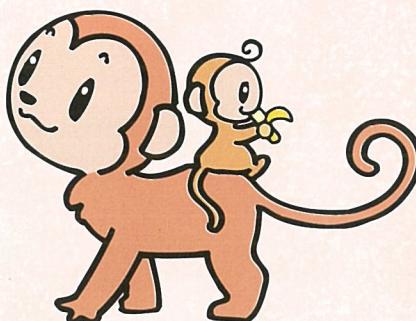
新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いします。

当院に就職し、もうすぐ1年が経とうとしています。就職した当初は、分娩介助や患者さんの個別性に応じたケアを実践する先輩方の姿に憧れると同時に、分娩時は何が起こるか分からず、という産科の世界に不安も抱きました。しかし、先輩方から「今のその気持ちを忘れず、持ち続けることが大事」という言葉を掛けていただいてからは、「何かがおかしい」と思った時は相談するなど、患者さんの安全を第一に考えるよう努めています。

また実際に患者さんと関わる中で、妊娠や出産・育児に対する価値観は様々であることを実感しています。個々の退院後の生活を見通した視点を持ち続けるとともに、患者さんに必要なケアを行えるよう、今後も知識や技術を磨いていきたいと思います。

申年は「悪いことが去る」「幸せがやってくる」という年であると言われています。まだまだ苦戦する毎日ですが、申年にあやかり少しでも患者さんに満足していただけるようなケアを提供していくように頑張りたいと思います。

未熟で至らない点も多くご迷惑をおかけしますが、精一杯自分の役割を果たしていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。





新職員自己紹介



放射線科医長
濱田 典彦

2016年1月1日付けで放射線科常勤となりました、濱田 典彦（はまだ のりひこ）と申します。

生まれも育ちも高知市で、1990年高知医科大学卒業、同大学院修了後、1996年（30歳時）より10年間の市中病院（細木病院および近森病院）勤務、2005年（40歳時）より10年間の高知大学勤務を経ました。現在50歳です。

大学院での博士号、学会認定の専門医資格とも放射線治療で取得しましたが、その後、放射線治療装置のない市中病院勤務となり、“ナンチャッテ画像診断医”を見様見真似で続けてきました。その後、大学に画像診断専任として戻り、現在は専門医資格も“放射線診断専門医”となっています。当院でも、画像診断を担当させていただきます。

私は内向きな人間で、歳をとるにしたがって新しい物事に興味がなくなり、趣味・嗜好は高校生の頃のままのことも多いです。仕事においては、大学病院在任中の10年間はCT専任であり、当院に赴任して自分の守備範囲の狭さを痛感しています。そこで、毎週大学業務を手伝いに行った際には、大学の後輩からMRIを習うことになりました。

私が当院の診療の質の向上に寄与するには、少々時間がかかりそうですが、寛大な心で見守っていただければ幸いです。私としましても、少しずつでもCT・MRIのトレンドに追いつくよう日々精進し、髪型だけでなく「お兄さん、トレンディーだね」と言われるよう努める所存です。



診療放射線科技師
吉田 政弘

はじめまして、昨年の11月より当院の放射線科で放射線技師として勤務させていただいております、吉田 政弘（よしだ まさひろ）です。

出身は佐賀県神埼市です。福岡医療専門学校を卒業した後、兵庫県西宮市の脳神経外科病院でおよそ半年勤務をしていました。以前の病院では、主に脳外と整形の撮影をしていました。

当院では、一般撮影、CT、MRI、血管造影、RI、放射線治療など多くのモダリティーがあり、病院のシステムも違うので覚えることが多く慣れるまで時間がかかりご迷惑をおかけすることがあると思います。また、今回四国に来ることは初めてなので、高知で働くことは新鮮であり、わからないことも多く不安もありますが精一杯努力していきますので、これからどうぞよろしくお願ひします。



主任臨床検査技師
檜垣 智也

はじめまして。この度、1月1日付けで四国こどもとおとの医療センターより異動してまいりました、檜垣智也（ひがき ともや）です。

出身は愛媛県です。

高知県の大学卒業後、善通寺病院・香川小児病院・四国こどもとおとの医療センターを経て、約10年ぶりにまたお世話になることとなりました。

大学在籍時から高知県は食べ物・お酒も美味しい、また高知県の方々の人柄も温かく住み心地のいいところだと感じていたので、当院に勤務できることを嬉しく思っています。

臨床検査業務については、これまで私は輸血、生化学、免疫部門を担当していました。当院では今までの経験・知識を生かして患者さんや地域に貢献できるよう努力していきたいと思います。まだまだ至らぬ点もあると思いますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

研修医症例検討大会(R1グランプリ) オーディエンス賞 受賞



初期臨床研修医 梶山 泰平

初期臨床研修医1年の梶山です。2015年11月に行われたR-1グランプリでオーディエンス賞をいただいたことについてその経緯などを書かせていただきたいと思います。稚拙な文章ですがご容赦ください。

まずR-1グランプリとは何なのか簡単に述べますと、高知県内の各臨床研修病院に勤める研修医が症例発表を行い内容の出来栄えを競うといったものです。今回は4度目の開催で、各病院から1~2組、合計10組のチームがエントリーしました。発表の流れは一般的な症例発表と同様ですが厳密に準じているわけではないので構成などは自由です。

私が提示した症例は2015年8月に高知県医師会で既に発表したものでしたが、この企画の傾向としてユーモアを盛り込んでもよし（むしろそれが求められる？）という雰囲気でしたので、ある程度の骨格は残しつつ私のセンスで再構成しました。その際に聴き手の多くが研修医・学生であることを踏まえ「極端なくらいにわかりやすくする」ことを意識し

ました。外科系の症例でしたので真っ先に画像を提示して最初の印象を強めたり、スライドの余白を多めに、文字を少なめにすることで意識を集中させやすくしたりといった工夫をしました。他にも流れに合わせた笑いのネタを取り入れ、気さくな話し方で耳に入りやすいようにするなど、いかに面白くして印象を残すかということに重点を置きました。

表彰は3種類でそれぞれ採点評価の仕方が異なっており、その内の1つのオーディエンス賞は審査員の先生方以外の聴き手から投票で選ばれるものです。ユニークかつ上手にまとめた発表が多くさすがに敵わないなと思っていたのですが、先に述べた試みが功を奏したのか予想外の受賞となりました。

今回の発表について最初から私一人だけでは到底準備できるはずがなく、構成元となったスライド・発表内容があったからこそ形にすることことができました。非常に忙しい中ご協力いただきました外科・呼吸器外科の先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



診療科紹介(呼吸器内科)

「超音波気管支内視鏡検査について」



呼吸器内科医長 岡野 義夫

本邦における死因の第1位はがんであり、部位別がん死亡率の第1位は肺がんです。原発性肺がんは、肺から発生したがんであり、小細胞がんと非小細胞がんに分類され、さらに、非小細胞がんは、扁平上皮がんと非扁平上皮がんに分類されます。

原発性肺がんの確定診断には病理組織学的な診断が必要であり、肺から細胞あるいは組織を採取する必要があります。気管支鏡検査は気管、気管支を介して細胞、組織を採取する際に用いられます。

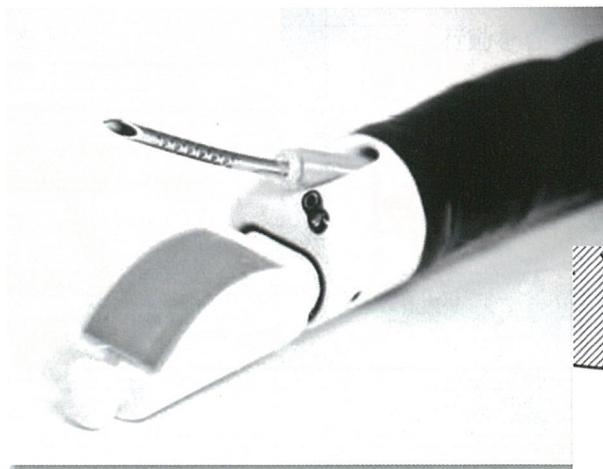
肺癌の確定診断方法が以前と比較して格段に進歩しており、当院にも最新鋭の医療機器を導入いたしました。

1.中枢型超音波気管支内視鏡

(EBUS:endobronchial ultrasonography,

TBNA:transbronchial needle aspiration)

気管、気管支粘膜にコンベックス走査式超音波気管支内視鏡を接着させ、バルーンを水で膨らますことで、リアルタイムに縦隔リンパ節を描出でき、可視下に同部位の針穿刺を行うことが可能です。



コンベックスプローブEBUS

2.末梢型超音波気管支内視鏡

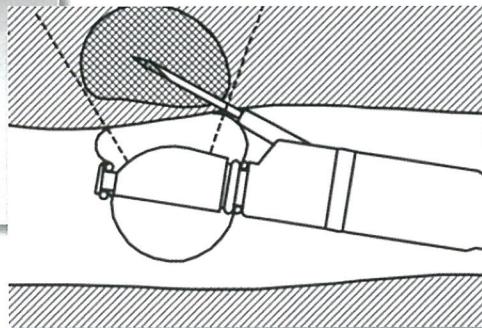
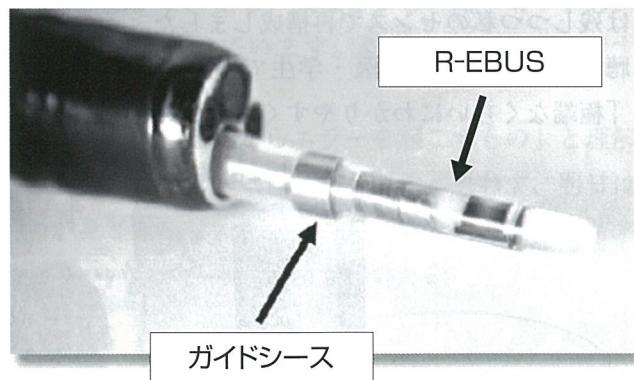
(EBUS:endobronchial ultrasonography, GS:guide sheath)

末梢病変に対してガイドシースの中を細径超音波プローブを通して病変まで誘導することで病変局所の超音波画像が描出されます。病変に到達したことを確認後、（病変内に入った像をwithinといいます）プローブのみを抜去し、ガイドシースを介して生検、擦過が実施できます。

これらの検査機器の導入により、大血管を傷つける可能性や出血量を減少出来るため、低侵襲の確定診断が可能となっています。

長引く咳、痰でお困りの方は呼吸器内科でご相談ください。

ラディアルプローブEBUS



防火・防災訓練を実施しました



管理課長 十河 秀樹

消防法により、防火訓練は年2回以上、防災訓練は年1回以上行う必要があります。当院では、今年第1回目防火・防災訓練を平成27年11月13日（金）に実施しました。

当日は南海トラフを震源とする巨大地震が15時に発生し、当院においても建物に被害が生じ、さらに地震に伴う火災が1北病棟で発生するという想定の下に、災害対策本部の設置及び情報伝達処理の訓練と、初期消火・患者避難誘導訓練に重きをおいて実施しました。

訓練開始!!まず地震発生直後から関係者に連絡をとり災害対策本部を立ち上げます。引き続いて各部署に被災状況を本部に報告するよう院内放送すると、各部署から一斉に伝達者が本部に集まり、その集まった情報を纏めるのですがなかなか思うように纏まりません。本部で四苦八苦していると、重ねて火災発生の非常サイレンが鳴り出します。何処から出火しているのか、火災の状況はどうなのか、火災対応用の本部設置が必要か等などますます混乱します。訓練とわかっているのですが、色々重なると慌てうまく対応できずに時間を要しました。

火災現場では各職場から応援職員が駆けつけ、初期消火、患者避難誘導にあたりましたが、思いのほか時間を要せずに本部に鎮火、避難完了報告が



届き終了しました。

訓練後の反省では、院内放送が聞こえなかった。出火想定場所があらかじめ示されていることから火災現場へ向かうタイミングが早すぎて実践的でない。災害本部は、重要な情報とそうでない情報を分かるようにしなければ、整理に時間を要するうえ重要な部分が分かりにくい。患者さんは検査等で病棟から離れている場合があり、その確認に時間を要する。など良くなかった点の指摘が多数ありました。

しかし、訓練は失敗するために行うものと思っています。訓練で見つかった問題点を少しでも改善して、本当の災害時に少しでも適切に対応できるようになることが一番だと思います。

災害発生のその時に、災害拠点病院である高知病院の職員として、しっかり行動し地域に貢献できるように、これからもっと実践的な訓練が必要と痛感しています。今回はトリアージ（傷病者治療の優先順位付け）訓練までは行うことができませんでしたので、来年度は外来診療の無い休日を利用し大がかりな訓練を行いたいと考えています。地震なんて起らないだろうではなく「備えあれば憂いなし」です。是非皆さんのが率先した取り組み、訓練参加をお願いいたします。



院内発表会を開催しました



庶務班長 山下 淳子

平成27年11月25日（水）に院内発表会を開催しました。第1回は平成22年10月1日に当院の開院10周年を記念しての発表会を開催して以来、今年で6回目を迎えました。

今年は、臨床研究部長の声かけにより、院内各部署から19題もの演題が集まりました。

当日は発表者、聴講者合わせて昨年（123名）を大きく上回る149名が参加し、活発な発表会となりました。発表5分、討論2分の予定で発表を行いました。持ち時間が十分ではない中、会場からの質疑応答も積極的に行われ、有意義な発表会となりました。

今後もこのような取り組みを通じて、病院の活性化に繋げていきたいと考えています。

第6回NHO高知病院院内発表会プログラム

17:40-17:45	開会にあたって	病院長 大串 文隆	18:55-19:05	- 休憩 -
17:45-18:20	セッション1	座長 脳神経外科 中城 登仁	19:05-19:40	セッション3
①小児科	熱性けいれん発作を主訴に当科を受診した小児患者の検討	小児科 長尾 佳樹	①リハビリ科	最大歩行速度と歩行自立度の関係
②泌尿器科	当院における軟性腎盂尿管鏡下尿路結石碎石術(f-TUL)の臨床的検討	泌尿器科 大河内寿夫	②薬剤部	後発医薬品採用促進の取り組み 薬剤部 林 武文
③看護部	～経管栄養でも食べる喜びを味わう～	1階北病棟 池田 伊代	③看護学校	看護専門学生のボランティア活動参加の現状と意識に関する調査
④看護部	手術なんて怖くな～い!!	4階北病棟 林 佳奈美	④看護部	看護必要度研修の工夫～当院独自のDVD演習による研修効果～
⑤看護部	認定看護師による専門看護研修を実施して	認定看護師連絡会 竹内 真弓	⑤看護部	看護必要度ワーキンググループ 中野 昌江 思春期の被養育体験と青年期の家族機能およびストレス対処能力との関連
				4階南病棟 市橋 由貴
18:20-18:55	セッション2	座長 リウマチ科 松森 昭憲	19:40-20:08	セッション4
①放射線科	CT画像とCT like Imaging画像の比較検討	放射線科 狩俣 昌平	①耳鼻咽喉科	座長 内科 岩原 義人 顔面神経麻痺後の病的共同運動に対するミラーバイオフィードバック療法
②消化器センター	十二指腸ステント留置で経口摂取が可能となった胃悪性リンパ腫の一例	消化器内科 板垣 達三	②呼吸器センター	耳鼻咽喉科 岩崎 英隆 当院の喀痰検体におけるアスペルギルス属の分離状況
③呼吸器/ 消化器センター	術前精査中に発見された肺癌と直腸癌の同時性重複癌の2手術例	外科 坂本 晋一	③呼吸器センター	呼吸器内科 田岡 隆成 診断のため外科的切除を要した孤立結節型肺NTM症の検討
④臨床検査科	アンバウンドビリルビンの変動因子の検討	臨床検査科 下村 孟史	④事務部	呼吸器内科 内藤 伸仁 15周年を迎えた高知病院について
⑤呼吸器センター	腺癌と小細胞癌による同時性多発肺癌の1例	初期臨床研修医 原田 舟	20:08-	事務部 大西 寛征 閉会にあたって
				病院長 大串 文隆



保育所だより



子どもたちのより良い環境作りを目指して

ぽぽてん保育園 植田 奈穂実

毎日の忙しいなか“ぽぽてん”に預けたら安心！と思ってもらえるような園でありたいと願い、楽しい行事や日々の保育のあり方を考えつつ、子どもたちの笑顔に癒されている私たちです。

「おはようございま～す」に始まり「お疲れさま」「大丈夫ですよ！」と声をかけあいながらお家の方の仕事が終わるまで、しっかりと子どもたちをお預かりしています。

行事は毎月のお誕生会の他に、春の親子遠足・秋の運動会などを計画し、お家の方と楽しい時間を過ごします。

子どもたちだけでなくお家の方も親睦を深める事ができたら・・・と親子一緒にそしてお母さん同士、おじいちゃん・おばあちゃんが楽しめる内容もたっぷり企画しています。運動会ではお母さんたちのみかん取りゲーム、なんだか妙に盛り上がっていますよ♪

成長した姿に目を細めたり、笑ったりしながら共に子どもたちのより良い環境作りをしていけたらと願っています。

小さいけれどアットホームな園、一度のぞきに来られませんか！？



絵本も楽しい
けど、ダンスも
好きながよ
♪♪



土佐っ子
パンザ～イ!!

お友達と一緒に
いいがやき～♪



緊張したけど、沢山の人たちに
見てもらって自信ついたよ。
やったあ!!



安心して預けられる園でありたいと
願いながら、沢山の笑顔と優しい
まなざしの中、子どもたち一人一人
の成長を見守っています。

きれいな空のもと、病院の
庭には楽しいもの沢山！



運動会、私らあも
楽しみゆうで～♪



これ、どんぐり
見てみいや!



平成27年度 『クリスマス会』

保育士
恩地 真由

12月17日は、利用者さんが楽しみにされているクリスマス会が行われました。前日にはキャロリングがあり、クリスマスツリーが綺麗に点灯する中、国立病院機構高知病院附属看護学校の看護学生、看護師、療育指導室職員がペンライトを片手に『きよしこのよる』を歌いながら登場し、クリスマスの雰囲気がぐっと盛り上がりました。

当日も早くから訓練室に集まり、待ちきれない様子の利用者さん。どの方も期待で目を輝かせておられました。まずは、みんなで♪赤鼻のトナカイや♪ジングルベルを歌い、『サンタ★サンタさん』のお話を楽しみました。お話の中では魔法の言葉をみんなで言ったり、踊りを踊ったり、色とりどりのスカーフを振ってみたりするところがあり、あちこちで笑顔で歌を歌ったり、身体を動かしたりする姿が見られ、大いに盛り上りました。

また、大串院長と長谷川看護部長にはサンタさんに

扮していただき、利用者さんからの質問に答えてもらったり、プレゼントを運んできもらったりと楽しい時間を演出していただきました。帰棟後も、プレゼントを開けたりして、笑顔をあちこちでたくさん見ることが出来た行事になりました。



感染管理室だより 専門看護研修(感染管理コース) を実施しました

感染管理認定看護師
原 昭恵



看護部では、平成23年度から認定看護師による「専門看護研修」を開催しており、平成24年度からは公開講座として対象者を地域の看護職員へも拡大しています。専門看護研修の目的は、専門分野における教育を行うことで看護の質の向上のために各部署でコアとなり根拠に基づいた看護実践を推進する役割を担う指導者を育成することです。

認定看護師とは、日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。現在、当院の認定看護師は、「感染管理」1名、「がん性疼痛看護」1名、「皮膚・排泄ケア」1名、「がん化学療法看護」1名の計4名が活動しています。

感染管理は、医療を提供する場にいる患者、職員、訪問者など院内すべての人を対象に病院における感染症を予防し、また、感染が発生した際には拡大を最小限に抑えるための対策を実行していく組織的活動です。

感染管理コースの研修内容としては、感染管理の基本、職業感染防止対策、洗浄・消毒・滅菌、膀胱留置カテーテルなど医療処置に関連する感染防止対策、感染管理活動の実際、感染症発生時の対応などについて、講義やグループワークを実施しました。研修は全6回となっており、今年度は院内3名、院外8名が全課程受講されました。平成23年度以降の全分野の終了者を合計すると88名となっています。今回、受講者からは「委員会や院内研修につなげていきたい」「学んだことを委員会で発信している」などの意見をいただきました。

安全な医療の提供において感染対策は重要であり、より適切な対策が必要とされています。それぞれの施設や部署に即した対策が根拠に基づいて実践できるよう、専門看護研修等を通して看護の質の向上に努めていきたいと思います。

今後も各分野の認定看護師による専門看護研修を続けていく予定です。少しでも興味のある方は一緒に学びませんか。

栄養管理室だより

高知県保育士会 アレルギー料理教室

主任調理師 下村 杉内 収(左)
茂春(右)

12月5日、高知県保育士会からアレルギー教室の講習依頼を受け福祉交流プラザにて講和と調理実習を行いました。講師として栄養管理室の調理師（下村・杉内）が参加しました。

教室には、保育所の責任者・栄養士・調理師など42名の参加で開催されました。

最初にアレルギーの食材について講義を行い、当日のメニューについて説明を行いました。

保育所には数名のアレルギー対応の園児があり、食事内容も同じメニューが続かないように個々に対応していることを聞き業務の大変さがわかりました。



当日のメニュー

- | | |
|------------------|------------|
| 1. コロッケ | 4. 米粉蒸しパン |
| 2. サクサクタピオカお好み焼き | 5. さつまいも羊羹 |
| 3. サクサクタピオカせんべい | |



今回は、コロッケの作り方を紹介いたします。肉・油・小麦粉を使わないヘルシーな野菜焼きコロッケです。

【材料】4人分…1人分 エネルギー110kcal

ジャガイモ (300g)、玉葱 (80g)、人参 (30g)、キャベツ (80g) コーンフレーク (70g) 塩 (少々)

作り方

- 1、ジャガイモはよく洗い、皮に切れ目を入れラップで包む。
耐熱ガラスに入れ電子レンジで5分加熱する。
(注: ジャガイモの大きさにより時間を変える。)
- 2、玉ねぎ、にんじん、キャベツはみじん切りにし電子レンジで2分から3分加熱する。
- 3、ボールに1と2を入れ塩を加え、混ぜ合わせ俵型に丸める。
- 4、コーンフレークはビニール袋に入れ細かく碎き、俵型の表面にまんべんなくつける。
- 5、オーブン (180度) で約5分間焼く。



野菜焼きコロッケ

主食の代わりによく使うもの

*サクサク粉とは? 東南アジアで収穫されるサゴ椰子の幹からとれる澱粉です。

*タピオカ粉とは? キャッサバ芋の一種で根茎からとれる澱粉です。

サクサクとタピオカを混ぜてうどんやお好み焼き、せんべいなどに調理し、主食の代わりに使います。

職員の異動

退職

1階中病棟 看護師 大西 康絵 2015年12月31日付

転出

臨床検査科 細菌主任 山本 珠美 2016年1月1日付

採用

診療放射線科 診療放射線技師 吉田 政弘 2015年11月1日付

転入

臨床検査科 細菌主任 檜垣 智也 2016年1月1日付

診療放射線科 放射線科医長 濱田 典彦 2016年1月1日付

医療安全管理室だより

ヒューマンエラーについて



医療安全管理係長 山本 三恵

医療安全の目指すところは、「医療現場におけるエラーを防ぎ事故を防止すること」です。人間は誰でも間違えるという特性を持っています。しかし間違いは防ぐことができます。そのために、間違いにくいシステムを構築することが重要とされています。

例えば、私は翌日忘れてはいけないものは玄関の廊下に置いておきます。そうすると、朝出かけるときに否が応でも荷物が目に入るので忘れません（忘れたことはありません）。また、ドアの鍵かけをしたかどうかいつも不安になります。それに対しては、ドアに鍵をかけた後に本当に開かないかドアをガチャガチャさせて確認します。車に乗ってから鍵をかけたかな？と不安になりますが、ドアをガチャガチャした行動は覚えているものです。その行動をしなかった日はとても不安になります。皆さんもそんなことは結構あるのではありませんか？

しかし、こんなに注意しているのに、先日帰宅したら、ドアに鍵がかかっていました。どうして鍵をかけ忘れたのか思い出してみると、一旦鍵をかけて家を出たんですが、忘れ物を取りに帰り、急いで家を出たのを思い出しました。原因は何かに気をとられていて、いつものルーチン行動を怠ったからでしょう。



ヒューマンエラーは人間の特性と環境が合致しない時に起こるといわれています。私の場合、人間の特性としては、冷静であればドアに鍵をかけたか確認する行動がとれるが、あわてるとその行動を省いてしまう傾向にあること。環境としては、時間がない状況といえます。

医療の現場にあてはめてみると、冷静な状態で仕事をしていると、確認ルーチンを実施し、ミスを起こさないが、多重業務、患者の急変、至急の業務といった場面では「あわてる」、「あせる」、「集中できない」状態に陥りやすい環境にあります。その場合は確認を省いてしまい、エラーにつながります。では、どうすればいいのかというと、私の場合は、急いだ時の人間特性を理解し、あえて、オーバーアクションを加えて確認を行ってみる。または、確認する前に、「今から確認をします」と自分に言い聞かせ、忙しい環境を少しの間リセットし、確認に集中させています。効果はやり方次第ですが。。。

「人は人であるからエラーを起こすもの」と理解し、他人のエラーは自分と無関係と思わず、明日はわが身と置き換え、自分の場合はどのように予防すればいいのかを考えて頂きたいと願います。



地域医療連携室だより

地域医療連携室 看護師長 秋森 容子



新年、明けましておめでとうございます。

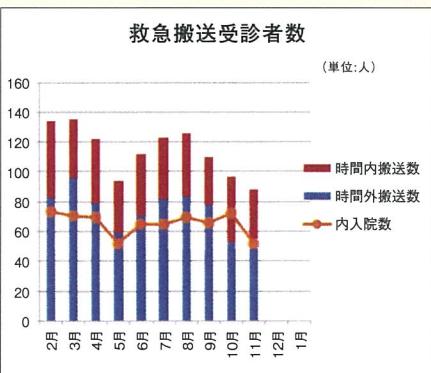
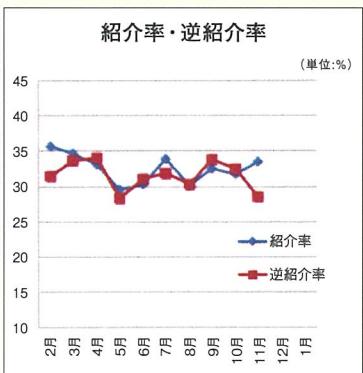
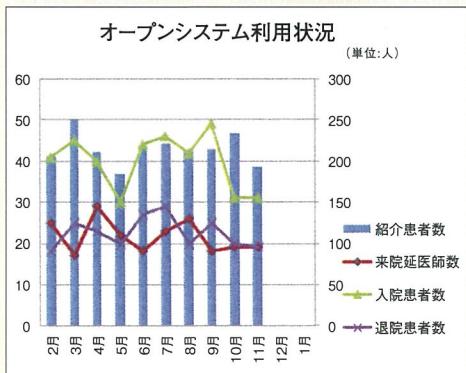
今年は暖冬で温かい日が続いています。先日、佐川町の牧野公園に行きましたら、すでに早咲きの桜や梅花黄蓮の花がひっそり咲いていたり、1月とは思えないような陽気でした。

湿度が保たれているせいかインフルエンザや肺炎での紹介搬送は例年に比べて少ないように感じます。これからが本番というところでしょうか。

地域医療連携室も新年を迎え、病院の理念である「私達は心のこもった医療を行い地域に信頼される病院になることを目指します」をひとりひとり心に留めチームとしてそれぞれの役割に真摯に取り組んでいきたいと思います。



○高知病院地域連携等概況



第117回高知病診連携フォーラム

日 時：2016年2月24日(水)18:30～

場 所：国立病院機構高知病院 2F 地域医療研修センター

講 師：【特別講演1】18:40～19:20

徳島大学大学院医歯薬学研究部

脊髄関節機能再建外科学 特任准教授 福田昇司 先生

【特別講演2】19:20～20:00

独立行政法人 国立病院機構 高知病院 副院長 篠原一仁 先生



事前申し込み不要 是非、おいでください。

看護学校だより

～ウィルセレモニー～



教員 曽根 美沙



平成27年10月30日（金）、第53期生40名は第10回ウィルセレモニーを迎えました。ウィルセレモニーとは、ナイチンゲール像からキャンドルの灯火を授かり「看護の心」を受け継ぎ、看護専門職者としての決意を新たにする大切なセレモニーです。今年はナイチンゲール誓詞に自分たちの誓いを準備、全員で一生懸命唱和の練習をしました。最初はまとまりませんでしたが、練習を重ねていくにつれ一人ひとりの誓いがクラス全体の誓いとなったように一つにまとまり、学生個々の顔も看護専門職者としての責任と自覚を兼ね備えた頼もしいものへと変わっていきました。

式典は、ご家族の方や卒業高校の先生方、病院関係者が祝福してくださる中、厳かに行われました。暗闇の中、あたたかく照らすナイチンゲール像から一人ひとり灯

火を頂く姿はとても幻

想的で、大変感慨深いものでした。人々の健康のために、清く、誠実に、分け隔てなく、看護の心を受け継いでいくことを自覚し、40名が力をひとつにし、灯火のようなあたたかい看護の心を育んでいくことを願っています。

また、臨床に立ってもこの日の気持ちを忘れることなく、支えて下さっている方々への感謝の気持ちを忘れず、看護の道を歩んでいってほしいと思います。



ナイチンゲール誓詞

われはここに集いたる人々の前に厳かに神に誓わん

わが生涯を清く過ごし わが任務を忠実に尽くさんことを

われはすべて毒あるもの害あるものをたち 悪しき薬を用いることなく

また知りつつこれをすすめざるべし

われはわが力の限り わが任務の標準を高くせんことを努むべし

わが任務にあたりて 取り扱える人々の私事のすべて

わが知り得たる一家の内事のすべて われは人にもらざるべし

われは心より医師を助け わが手に託されたる人々の幸のために 身を捧げん

～基礎看護学実習Ⅰを終えて～

第53期生40名は、平成27年12月1日～11日に基礎看護学実習Ⅰを行いました。基礎看護学実習Ⅰは、7日間という短い期間の中で対象者と対象者を取り巻く環境の理解を深めること、またコミュニケーションを基盤として基本技術や日常生活援助技術を対象者に実施し、看護の目的・方法を学ぶことを目的としています。初めての臨地実習ということで、期待と不安を胸に緊張の面持ちで初日を迎えた。学内で基本技術や日常生活援助を練習してきましたが、初めて患者さんに実践する際には手が震え、練習通りに行うことで精一杯でした。そんな未熟な学生にも「ありがとう。気持ちよかったです」とあたたかい笑顔で迎え入れて頂き、泣きそうだった学生の顔も日を追うごとにキラキラと輝いていました。戸惑い悩みながらの7日間でしたが、患者さんや指導者の方々に支えられ、充実した実習となりました。この実習で感じたことや体験したことは、今後も看護の原点として学生個々の心に深く刻まれることでしょう。基礎看護学実習Ⅰでの学生の学びの一部をご紹介します。

私は今回の基礎看護学実習Ⅰでの実習を通して、看護とは現在の患者さんにとって必要な援助は何かを考え、自分本位で実施してはいけないということを学びました。学校の実習室で援助練習をする時、相手は気の知れた友人で何の気兼ねをすることもなく実施していました。患者さんのことを考えるよりも自分自身がいかに効率よく動けるかということばかりに気を使っていました。実習2日目、私は自分自身の1日の実習スケジュールを優先してしまい、患者さんの援助を二の次にしてしまうようになりました。その際、指導者から自分の計画をこなすために実習に来ているのではなく、患者さんの援助を中心に行動するようにと指導を受けました。私は患者さんの体調の変化や1日の過ごし方のこと等考えることなく身勝手な行動をしてしまっていたのだと気付かされました。私たちは常に患者さんにとって最善である援助を行うことを念頭に行動しなければなりません。計画した援助がいかに大切なものであったとしても、それが患者さんの求める援助ではなく満足を得ることもできず、看護師にとって自己満足で終わるものであってはいけないと思います。患者さんの意思を可能な限り尊重しながら他職種との連携を図っていくことも看護には必要不可欠なことです。今回の実習では、環境が患者さんに与える影響についても学ぶことができました。患者さんに誠実に向き合い、心の声に耳を傾け、日々の小さな変化に気付くことが患者さんの治療の場であり生活の場である療養生活における安全・安楽を守ることに繋がります。看護に正解はひとつではないと思います。病院内における主役は常に患者さんです。原理原則に基づいた看護を個々のニードに合わせ提供できるよう、今後の学習に繋げていきたいです。

振り返りの発表会の中で改めて看護とは何かについて学ぶことができたと思います。先生が「看護には答えがない」とおっしゃっていたように、みんなの意見を聞いていると一つの援助に対しても一人ひとり看護の仕方や患者さんへの対応の仕方などが違うので、たくさんの意見を聞きながらこの患者さんにはどの方法が最善なのかを考えていかなければならぬと思いました。看護には答えがなくとも、患者さんにとってどれが最善の援助なのかはきっと答えはあると思うので、安全・安楽・自立を守りどんな援助をするのかを根本におき、根拠を明らかにしながら援助するべきだと思いました。そしてそれが看護ではないかと思います。私は「看護は本当に難しい」と、この実習で思いました。自分が想像していたように看護は進まないし、何事も上手くいかなくて自分に腹を立てることばかりでした。結果的に自分には練習が足りないということが分かり、練習することによって想像と違うことが起きたとしても臨機応変に対応できるのではないかと思います。だから看護は練習と経験が大事だと思います。

外来診療担当医表

(平成27年9月30日現在)

■受付時間 8:30~11:00

整形外科 火曜日は予約患者のみの診察になります。

(新患、予約のない方は原則診察できません)

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	午前	1 診 ⑫	門田・町田	内藤・岡野	井上 修志	今西 志乃
		特別外来 ⑪	松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)
	午後	専門外来			化学物質過敏症(予約制)	
神経内科		⑯	不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)			
呼吸器内科 アレルギー科	午前	1 診 ⑧	篠原 勉	大串 文隆	高山 暢生	大串 文隆 (紹介のみ)
		2 診 ⑥			高橋・田岡	町田 久典
		3 診 ⑫				門田・内藤
	午後	専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)
消化器内科	午前	⑨	井上・末内	三井 康裕	板垣 達三	井上 修志
循環器内科	午前	⑦	山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志
	午後	専門外来				ベースメーカー(第2木曜)
リウマチ科		⑩	松森 昭憲 (糖尿病も診察)		大串 文隆 (予約・再診のみ)	松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前	1 診 ①	武市 知己	大石 尚文	武市 知己	小倉 英郎
		2 診 ②	大石 尚文	井上 和男	長尾 佳樹	高橋 芳夫
		3 診 ③				武市 知己
	午後	専門外来	神経・アレルギー (第2月医大循環器)	アレルギー 循環器	乳児検診	アレルギー NICUフォローアップ
		予防接種	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)	14:00~15:00 (予約制)
外科	午前	⑤	大塚 敏広	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)
	午後	専門外来		福山(乳腺外来) 大塚(胃ろう・ヘルニア外来)		日野・福山 乳腺外来
整形外科	午前	①	篠原 一仁	兼松 次郎	小林 亨	篠原(第1・3・5) 小林(第2)
						合田(第4)
	午後					田村 竜也
脳神経外科	午前	1 診 ⑧	非常勤 10:00~	中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁
呼吸器外科	午前	⑦		日野 弘之		日野 弘之
小児外科	午前	⑤				
皮膚科	午前	⑬	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌尿器科	午前	⑨	渡邊 裕修	笠原高太郎 渡邊(奇数週) 大河内(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前	⑯	滝川 稔也	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子
	午後					予約制
婦人科	午前	⑳	福家 義雄 原田 裕子	小林 文子 (完全予約制)	小林 文子	滝川 稔也
						当番医
眼科	午前	㉑	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前	㉒	岩崎・中野	岩崎・中野	岩崎・中野	岩崎・中野
	午後					
リハビリテーション科						
放射線科			小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久	塩田 博文
						小松 幸久

※内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。

※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。